

いずみさの教育

NOW

問合先
学校教育課
☎493-2091

教育支援センター「さわやかルーム」「シャイン」

本市の不登校児童生徒数の状況は、国や府と同様に増加し続けています。そんな中、本市においては国の指針に基づき「学校に登校するという結果のみを目標とせず、子どもたちが自分の進路を主体的に考えられるようになることを後押しすること」を目的として、様々な取組を行っています。その取組の1つとして、教育支援センター「さわやかルーム」（南部市民交流センター本館）「シャイン」（北部市民交流センター青少年分館）という2カ所の教育支援センターを設置しています。

教育支援センターは、学校に行きたいけれど行けない児童生徒にとって、家と学校の中間的な居場所として活動しています。元教員のスタッフを中心に、大学生や主婦のボランティアスタッフ、カウンセラーが常駐し、通所する児童生徒のそれぞれの状況や希望に合わせた活動を行っています。学習活動においては、在籍校と連携し、児童生徒の状況にあわせた内容や、在籍クラスに進度にあわせた学習が可能な環境を整えています。定期テストなどをこちらの施設で受験

しているケースもあります。学習支援だけでなく、社会見学やデイキャンプ、マラソン大会、調理実習、学習発表会、卒業生との交流会などの体験活動も実施しています。

今年度は、教育支援センターとして、万博招待事業にも参加しました。年度末には、登録児童生徒を対象とした卒業式を執り行い、スタッフが中心に準備・進行し、在籍校の校長先生や担任の先生にも出席いただき、子どもたちの門出を温かく見守っています。

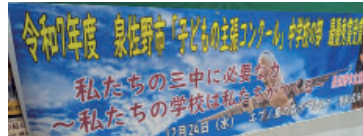
このように教育支援センターでは、人とのつながりや社会とのつながりを感じること、心のエネルギーを高め、学校復帰や社会的自立に向けて支援しています。

今後も、本市では不登校を未然に防止するために、魅力ある学校づくりやより良い人間関係づくりはもちろんのこと、不登校の児童生徒に対しては、心の居場所づくり、学校復帰や社会的自立に向けて支援に取り組んでいきます。

学校園紹介

私たちの三中に必要な力
～第三中学校～

【オンラインミーティング】第三中学校区のめざす子ども像は、「目標をもって主体的にとりくめる人」「たがいの気持ちを考えて助け合える人」です。今年度は生徒会の取組として1学期に「全校オンラインミーティング」を行い、自分たちがどのような学校にしたいのかを「自分に関する力」「他者と関わる力」「両者に関する力」で非認知能力の三大柱を基に考え、生徒会でまとめ全校集会で報告しました。発表することで生徒の意識も高まりました。



【学園名が決定！】第三中学校区（第三中、北中小、長坂小、日新小）の小中一貫教育の推進と、めざす子ども像を共有する中学校区の学園名が、応募のあった17の案の中から、地区の児童による愛称名が採用され「にちにちそう学園」に決定しました。「ニチニチソウ」の花言葉には「生涯の友情」「楽しい思い出」「やさしさ」があります。各校でニチニチソウを植えて一体感のある教育活動に取り組んでいきます。

児童主体の教育活動を目指して
～第二小学校～

第二小学校では子どもたちの主体性を活かし、学校生活がより楽しく豊かになるように、異学年交流を積極的に行っています。昨年度から軌道に乗り始めた、たてわり活動の「にっこ二小タイム」は、全校児童を「たてわり」班に編成し、高学年を中心に「なかよし」遊びや「たてわり」清掃活動を通して子どもたちの結びつきを強化し、魅力ある学校づくりに繋がっています。

【地域との交流会】7月に地域のみなさんに参加していただき、4年生と「かざぐるま」づくりを通して交流を行いました。あちこちで笑い声や笑顔があふれ、本当に楽しい時間となりました。最後に4年生から地域のみなさんへのお礼に元気な歌声を披露しました。



【全児童活動】11月の人権講演会で、全盲ドラマーの酒井響希さんにご両親を招き、講演と酒井さんが日頃使っているグッズの紹介や児童からの質問タイム、ドラム演奏を楽しみました。ドラム演奏でのヒット曲メドレーでは運動会でのダンス曲も含まれ、児童たちは大いに喜び、体育館内はたいへん盛り上がりしました。

